

表-6.12.1.1(1) 陸域生態系の調査概要 (その6)

調査方法	エ) 小型コウモリ類	<p>て1時間当たりの入感回数を記録した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛翔場所調査 0.5ha前後の面積の小規模な樹林の周囲を7名でほぼ一定の間隔で取り囲むように並び、同時に調査場所の林内へ入り、B.D.での超音波の受信や目視観察により小型コウモリ類の活動状況を調べた。 ・標識装着 事業実施区域の5洞窟内に生息する小型コウモリ類をスニープネット、あるいはカスミ網で捕獲し、アルミニウム翼帯を前腕部に装着した。捕獲の際、可能な場合は性別及び成長段階を記録した。 ・採餌域調査 カスミ網による捕獲：採餌域と推定される地域において、夜間にカスミ網を設置し、小型コウモリ類を捕獲した。捕獲した個体は種を同定し、性別及び成長段階を判別し記録した。成長段階の判別はHutoson & Racey (1999)を参考にした。また、捕獲個体に標識が装着されていた場合は標識番号を読みとりどこの洞窟由来かを調べた。 <p>(ウ) 採餌昆虫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・餌昆虫調査・分析：事業実施区域周辺の孤立林、人工草地、牧草地、耕作地、東水岳樹林と、対照地として於茂登岳斜面樹林の計6地点で、ライトトラップ、マレーズトラップにより昆虫を定量的に採集した。採集した昆虫類を直接目視、及び顕視により目レベルまで同定した。また、液浸サンプルの場合も、脱脂綿に並べて乾燥させ、目レベルで同定した。目別、調査地点別に合計乾燥重量を計測した。 ・食性調査・分析：小型コウモリ類のコロニーが観察された場所の直下に堆積した糞塊のうち、最も新しい部位(上部)をピンセットにより採集した。採集した糞を70%アルコール液浸した後、約0.6mmメッシュのステンレス製篩網を用いて、微小な細片と1mm以上の小片へシャワー状の流水を使って分離した。小片の分画から、大きくて目立つ小片を選び出し、実体顕微鏡を用いて可能な限り種の同定を行った。 <p>(エ) 洞窟内の環境</p> <p>洞窟内の小型コウモリ類がコロニーを形成していた場所に環境測定器を設置し、温度を測定した。入洞時に湿度を測定した。</p> <p>(オ) 石垣島全域における小型コウモリ類の生息実態と洞窟間の移動</p> <p>既存文献及び聞き取りから調査対象洞窟を選定し、(イ)と同様の方法で小型コウモリ類の生息状況と利用状況を調べた。</p> <p>(カ) 集団遺伝学分析</p> <p>事業実施区域周辺及び石垣島内の洞窟に生息する小型コウモリ類を捕獲し分析試料を皮膚から採取して放</p>
------	------------	--